

公益財団法人 平野政吉美術財団

平成26年度 事業実施計画

I 展示公開事業

II 教育普及事業

III 調査研究事業

IV 美術ホール運営事業

V 誘客事業

VI 情報発信事業

VII 売店事業

平成26年3月16日

<基本方針>

- ・1930年代の藤田嗣治の油彩画を中心とした平野政吉コレクションの展示や美術品に関する調査・研究等を行い、県民のみならず広く世界に藤田作品のすばらしさを発信する。
- ・展示公開事業は、藤田嗣治作品に焦点を当てた企画展と特別展、藤田嗣治と関連のある芸術家を取り上げた企画展を開催し、藤田嗣治の豊かな画業を県民に紹介する。また、秋田をテーマにした特別展も開催する。
- ・教育普及事業では、企画展および特別展関連講演会、ワークショップ等の美術館教室、ギャラリートークを実施し開かれた美術館を目指す。特に壁画《秋田の行事》は、月一回の定例ギャラリートーク、および、館外での美術館教室を行う。県民が藤田作品に親しみ、郷土・秋田への理解を深めることができるような取り組みを継続して実施する。
- ・セカンドスクール対応の充実により、学校教育への支援と学習の場を提供する。県総合教育センターや研究者と連携して、美術館における鑑賞教育の在り方をともに考え、実践する。
- ・美術ホールは、国文祭終了後、本格的に県民への貸出を開始することから、初めて利用する方のために、できるだけ利便性を図るよう留意する。

I 展示公開事業

1 常設展示事業

平野政吉コレクション展 I

1 会 期 平成26年4月1日（火）～平成26年7月6日（日）

2 会 場 大壁画ギャラリー

3 趣旨

平野政吉コレクションから、藤田嗣治がブラジルの街頭に取材した作品など、中南米旅行から日本滞在期に描いた作品を中心に展観する。

4 主な展示作品

藤田嗣治作品

《秋田の行事》 《カーナバルの後》 《町芸人》 《室内の女二人》 《吾が画室》
《自画像》 《私の画室》 《北平の力士》 《五人女》

平野政吉コレクション展 II

1 会 期 平成26年7月11日（金）～平成26年9月16日（火）

2 会 場 大壁画ギャラリー

3 趣旨

平野政吉コレクションから、藤田嗣治が描いた乳白色の裸婦像の大作と藤田の素描などを展観する。

4 主な展示作品

藤田嗣治作品

《秋田の行事》 《眠れる女》 《五人女》 《メキシコでの素描》 《北京での素描》

平野政吉コレクション展 III

1 会 期 平成26年9月20日（土）～平成26年11月4日（火）

2 会 場 大壁画ギャラリー

3 趣旨

平野政吉コレクションから、藤田嗣治が日本で営んだアトリエを描いた作品などを紹介する。

4 主な展示作品

藤田嗣治作品

《秋田の行事》 《五人女》 《吾が画室》 《自画像》 《私の画室》 《北平の力士》

平野政吉コレクション展 IV

1 会 期 平成26年11月8日（土）～平成27年3月22日（日）

2 会 場 大壁画ギャラリー

3 趣旨

4 主な展示作品

平野政吉コレクションから、中国旅行での取材をもとに制作された油彩画とその下絵となった素描、中南米に取材した油彩画などを展観する。

藤田嗣治作品

《秋田の行事》 《五人女》 《北平の力士》 《北京での素描》 《カーナバルの後》
《町芸人》 《室内の女二人》

2 企画展示事業

企画展 藤田嗣治の素描 ～線の息づかい～

1 会 期 平成26年4月1日(火)～平成26年7月6日(日)

2 会 場 ギャラリー1・2

3 趣旨

乳白色の下地に繊細な線描で描かれた藤田嗣治の裸婦像は、その透明な美しさで鑑賞者を魅了する。そのような油彩画の下絵に用いられた素描には、裸婦の生気を内包しているかのような鉛筆の線が躍動している。

「線とは単に外廓を言うのではなく物体の核心から探求されるべきもの」「直感から生まれた線が的確にして無限に深い」と藤田は語っている。対象の本質を見極める鋭い直感をもとに描かれた素描は、あたかも息づいているかのようなリアルさである。

本展では、群像大作制作を念頭に描いた人物デッサン、中南米の旅をともした妻・マドレーヌをモデルにしたデッサンなどを展覧する。メキシコや中国で描いた現地の人々の顔貌のデッサンは、当時の藤田の関心のありかを示している。壁画《秋田の行事》の制作のためのクロッキーからは、対象に迫る藤田の眼差しを感じ取ることができる。

対象の事物と一体になって描くという藤田の線を、約40点の素描で堪能していただく。

4 主な展示作品

藤田嗣治作品

《自画像》秋田県立近代美術館 《裸婦立像》秋田県立近代美術館
《横臥裸婦》秋田県立近代美術館 《三人の裸像》秋田県立近代美術館
《壁画の素描》 《北京での素描》 《メキシコでの素描》

企画展 藤田嗣治 絵画と言葉

1 会 期 平成26年7月11日(金)～平成26年9月16日(火)

2 会 場 ギャラリー1・2

3 趣旨

藤田嗣治は『地を泳ぐ』や『腕一本』などの随筆集や、新聞や雑誌への寄稿、対談記録等を発表している。それらの文章のなかには、作品の周辺を鮮やかに浮かび上がらせるものがある。『地を泳ぐ』には、中南米歴訪の感興、日本での暮らし、中国の旅での見聞、沖縄訪問など、平野政吉コレクションの1930年代の油彩画と関連のある随筆が収められている。《カーナバルの後》、《自画像》、《北平の力士》、《客人(糸満)》などとともに、藤田の言葉を展示する。

4 主な展示作品

藤田嗣治作品

《カーナバルの後》 《吾が画室》 《自画像》 《私の画室》 《北平の力士》
《北京での素描》 《客人(糸満)》

企画展 藤田嗣治と土門拳の交差

1 会 期 平成26年11月8日(土)～平成27年1月18日(日)

2 会 場 ギャラリー1・2

3 趣旨

1933年に、パリから帰国した画家・藤田嗣治は、東京市淀橋区戸塚町にアトリエを建て、日本での活動を本格的なものとする。1937年には、同市麴町区六番町にアトリエを新築し、ここで戦争画を描くことになる。この六番町のアトリエから、戦後日本を離れるまでの藤田の姿を撮影したのが、土門拳である。その撮影期間は、1941年頃から1949年に及ぶ。

土門拳は若い頃、画家になる夢を抱いていた。その夢を断念し、その後、写真家の道を選択する。日本工房で報道写真に取り組み、同社退職後は、国際文化振興会のカメラマンとしても活躍した。

1930年代、国際情勢が緊張する中、外務省は日本の文化を海外に発信するために、機構を整え、さまざまな活動を行っていた。そのような対外文化事業に藤田も関わっていたのである。

本展では、1940年代の日本の状況を踏まえながら、同時代の日本で邂逅した芸術家ふたりの作品を展観する。

4 主な展示予定作品

藤田嗣治作品

《吾が画室》 《自画像》 《私の画室》 《ちんどん屋三人組》 《力士》 《客人》

土門拳撮影写真

「東京」 「文楽」 「手」 「室生寺」 「風貌」 「藤田の画室」

3 特別展示事業

特別展 藤田嗣治 どうぶつものがたり

1 会 期 平成26年9月20日(土)～平成26年11月4日(火)

2 会 場 ギャラリー1・2

3 趣旨

「サイン代わりに猫を描くこともある」と語っていた藤田嗣治。猫は、藤田が好んで取り上げたモチーフである。柔らかな肌の質感表現に意を注いだ藤田にとって、細くしなやかな毛をかき分けながら触れる猫の体の感触も、創作意欲を掻き立てるものだったに違いない。ふんわりと柔らかい猫たちが、透明感溢れる乳白色の裸婦の傍らに、愛らしい姿で描かれた。乳白色の下地と繊細な線描は、猫を描くのにも適していたのである。

自画像には、藤田の背後から顔をのぞかせたり、懐に入り込む猫が描かれており、藤田と猫の親しい関係が窺われる。その親密さがあってこそ、眠る猫の穏やかな表情、伸びやかな姿態、瞬時の動作などを捉えることができたのだろう。

藤田の繊細な筆遣いは、猫の他に、犬、馬、鳥、そして水辺の生き物たちまで、その生命力を描き出した。油彩、水彩、墨画など、技法は問わなかった。動物の動勢の表現も、藤田が常に意識的に取り組んだテーマであった。画面に多数の動物が躍動している作品も多い。時には、動物たちが、藤田を巡る状況を比喩的に表すこともあった。そのような作例では、擬人化された猫や猿、鳥などが登場する。

本展覧会では、藤田が動物を描いた作品を紹介し、画面の動物たちに込めた藤田の意図を探る。優れた観察力と描写力によって生き生きと描かれた動物たちの、しぐさや表情を楽しみながら、藤田の思いに触れていただく。

4 主な展示予定作品

藤田嗣治作品

《自画像》名古屋市美術館 《家族の肖像》名古屋市美術館
《私の夢》新潟県立近代美術館・万代島美術館 《猫》東京国立近代美術館
《タピスリーの裸婦》京都国立近代美術館 《動物群》目黒区美術館
《狐》秋田県立近代美術館 《カニ》秋田県立近代美術館 《鯰》秋田県立近代美術館
《自画像》 《眠れる女》 《町芸人》 《室内の女二人》 《自画像》
『魅せられたる河』より 《パレ・ロワイヤル》

特別展 郷土・秋田を想う

1 会 期 平成27年1月22日(木)～平成27年3月22日(日)

2 会 場 ギャラリー1・2

3 趣旨

パリで活躍した藤田嗣治は、日本滞在中、アトリエを構えた東京からたびたび秋田を訪れ、1937年に壁画《秋田の行事》を制作した。秋田の人々や風俗にふれた藤田は、随筆のなかで秋田を「嬉しい吾が郷土」と呼んでいる。

この頃、藤田とは異なる位置から秋田を見つめていた画家たちがいる。小坂町出身の福田豊四郎と、秋田市出身の勝平得之である。

福田は1930年、第11回帝展の特賞を受賞。その後、日本画におけるモダニズムを追求した。勝平は、独特の彩色版画を完成させ、1931年には帝展に初入選した。

福田は、東京から秋田に想いを寄せ、勝平は秋田に在住しながら、それぞれ郷土の風景や風俗をテーマにした作品を制作したのである。

本展では、ヨーロッパを体験した藤田、そして秋田県出身の福田、勝平の3人まなざしを比較しながら、秋田への想いを探る。

4 主な展示予定作品

藤田嗣治作品

《秋田の行事》

福田豊四郎作品

《山の秋》秋田県立近代美術館 《冬漁》秋田県立近代美術館

《山菜売る人たち》秋田県立近代美術館 《五月山湯》秋田県立近代美術館

《六月の森》秋田県立近代美術館

勝平得之作品

《雪の街》秋田県立近代美術館 《五月の街》秋田県立近代美術館

《ナマハゲ》秋田県立近代美術館 《櫓》秋田市立赤れんが郷土館

Ⅱ 教育普及事業

(1) 講演会

講演会名	特別展「藤田嗣治 どうぶつものがたり」関連講演会
実施日	平成26年10月中旬
会場	レクチャールーム

講演会名	企画展「藤田嗣治と土門拳の交差」関連講演会
実施日	平成26年12月中旬
会場	レクチャールーム

講演会名	特別展「郷土・秋田を想う」関連講演会
実施日	平成27年2月中旬
会場	レクチャールーム

(2) 美術館教室

教室名	《秋田の行事》を歩こうⅠ ～外町・日吉八幡神社・香爐木橋～
実施日	平成26年4月26日(土)
会場	秋田市大町・寺内

教室名	《秋田の行事》を歩こうⅡ ～大平山三吉神社～
実施日	平成26年5月24日(土)
会場	秋田市広面赤沼

教室名	特別展「藤田嗣治 どうぶつものがたり」関連ワークショップ
実施日	平成26年9月下旬
会場	レクチャールーム

(3) ギャラリートーク

企画展関連	藤田嗣治の素描～線の息づかい～
実施日	平成26年4月19日(土)・5月22日(土)・6月21日(土)
会場	ギャラリー1・2

企画展関連	藤田嗣治 絵画と言葉
実施日	平成26年7月19日(土)・8月16日(土)
会場	ギャラリー1・2

特別展関連	藤田嗣治 どうぶつものがたり
実施日	平成26年9月20日(土)・10月18日(土)
会場	ギャラリー1・2

企画展関連	藤田嗣治と土門拳の交差
実施日	平成26年11月15日(土)・12月20日(土) 平成27年1月17日(土)
会場	ギャラリー1・2

特別展関連	郷土・秋田を想う
実施日	平成27年2月21日(土)・3月21日(土)
会場	ギャラリー1・2

常設展関連	定例ギャラリートーク《秋田の行事》を読み解く
実施日	毎月第1土曜日
会場	大壁画ギャラリー

Ⅲ調査研究事業

《秋田の行事》をはじめとする藤田嗣治の作品を調査研究し、その成果を公表する。

Ⅳ美術ホール運営事業

1. 事業内容

- ①絵画、デザイン、彫刻、書道、写真、児童・生徒作品等、美術ホールで展示する個人および団体の利用受付業務、展示指導を行う。
- ②美術ホールと展示室が一体となった利用を促進する。児童・生徒のセカンドスクールや職場体験学習の一環として、美術ホール見学を実施。ギャラリー1・2の企画展、特別展、及び大壁画ギャラリーの平野政吉コレクション展と美術ホールの展示作品の同時鑑賞を推進する。

V 誘客事業

事業名	アニバーサリーは美術館で
実施日	随時
会場	大壁画ギャラリー ギャラリー1・2
内容	誕生日や結婚記念日に来館した人に、絵はがきなどをプレゼント。

事業名	こどもアンケート
実施日	随時
会場	大壁画ギャラリー ギャラリー1・2
内容	展示作品の印象を楽しく記入。親子連れにリピーターになってもらう。

VI 情報発信事業

事業名	美術館ホームページの充実
実施日	随時
内容	ホームページの内容を精査し、よりアピール度の高いものにする。海外向けに的確な英語表記を掲載。

事業名	リアルタイム情報発信
実施日	随時
内容	f a c e b o o k で、素早く展覧会やイベントの情報を発信。

事業名	美術館地域サポーターの養成
実施日	随時
内容	周辺商店や案内人向けの展覧会講習。

VII 売店事業

藤田作品の理解を深めるため、インターネットでの《秋田の行事》の額絵販売を行う。
秋田県立美術館ミュージアムショップ運営業者へ絵はがき等の販売を委託する。
新たな商品を開発する。((《秋田の行事》クリアファイルなど)